

シャイン 071号

「かかわり」というギフト

榊原 紀浩さん

会社名：某消費財メーカー

役職：部長

資格等：産業カウンセラー



【受講のきっかけ】

「35年間仕事を続けてきて、本当に良かったことは何だろうか？」

これは、定年を前にして自分の役割や報酬の前提であった「会社」との契約の終わりが見えてきたときに感じた、不安からの問いです。そこから見えてきたのは、働いていた部門にかかわらず、自分が現場の中で人に寄り添い、苦労をともに味わい、ともに明るい方向を模索しながら、歩み出した人の背中を眺めて来た、ということでした。

私は、つねに安心して働ける場作りを意識していました。人事部在籍時に実施した「自助努力で退職後の資産を増やせる制度」や「年代別キャリア研修」等の企画もその一環です。しかし一人一人と向き合っていくほど、メンタル不調、上司との価値観の相違、家庭と仕事の両立の難しさ等で悩んでいる方々が実に多いことに気付きました。まずは、その方々のお話を聴くことから始めないと根本的な改善にはなかなか進まないということも実感しました。

そこで、話を聴く場を少しでも社内を増やすために「人の話を最後まで聴く研修」を実施しました。また、コーチングについて学び、「傾聴」という言葉に出会い、それらの可能性を感じ始めるようにもなりました。私が、「傾聴」をさらに体系的に学ぶことで自分の血肉として60歳以降の人生に活かすことができないうだろうか、と考えている時に知人から紹介されたのが「産業カウンセラー」の資格だったのです。

産業カウンセラー養成講座の受講は会社からの指示等ではなく、自分自身の意志で決めました。

受講者の多くは、人に興味を持たれている方が多いことから、カウンセリングについての知識理解だけではなく、メンバー相互の信頼感から自己開示が促進され、自身の自己成長につなげることができました。

【資格取得後の活動状況】

産業カウンセラー資格を取得した後、現在は「相談員になるためのカウンセリング・実践力トレーニングコース」を受講しています。相談員として活躍されている指導者の方々の下で、より深い内容のトレーニングを行うので、都度自分の課題を知り、それに伴って自己成長が促されているものと実感しています。

また、個人的な活動としては、私が所属長をしている部署メンバー全員に対して、仕事以外のこと、例えば「自分の好きなこと」や「自分の得意なこと」といったテーマで、個別に対話の場を設けています。子会社の従業員に対する相談員としての活動も始めており「傾聴」を意識した職場のコミュニケーションづくりに積極的に関わっています。

現在の私が、周りの人々からこれまで沢山いただいた「かかわり」というギフトによって成り立っているということは、養成講座での自己理解を通じた気づきで得ることができたものと改めて強く認識しています。

今後、60代以降の働き方として、どのようにカウンセラーの資格を活用していくか、具体的なビジョンはまだまだこれからですが、どんな形であれ、少しでも多く、長く、深く、相談者として人々への恩返しができたらいいなあと考えています。